

平成 26 年 10 月 28 日	病虫害発生予報 11月号	茨城県病虫害防除所 茨城県植物防疫協会
----------------------	-------------------------------	------------------------

農薬は、必ずラベルを確認し周辺状況を考慮して使用しましょう。

～ 間違いやすい適用作物にご注意を！～

＜ 目 次 ＞

I. 今月の予報	
【注意すべき病虫害】	
イチゴ：ハダニ類・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
促成ピーマン：アザミウマ類・・・・・・・・・・・・・・・・	1
秋冬ハクサイ：アブラムシ類・・・・・・・・・・・・・・・・	2
レタス：菌核病・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
【その他の病虫害】 ・・・・・・・・・・・・・・・・	3
ナシ，イチゴ，促成ピーマン，秋冬ハクサイ，レタス，秋冬ネギ，共通害虫	
II. 今月の気象予報 ・・・・・・・・・・・・・・・・	
4	
<p>本文に記載されている薬剤は平成 26 年 10 月 22 日現在のものです。 最新の農薬登録内容は、(独)農林水産消費安全技術センターホームページの「農薬登録情報提供システム」(http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm) で確認することができます。</p>	
<p>詳しくは、病虫害防除所へお問い合わせ下さい。 茨城県病虫害防除所 Tel :029-227-2445 予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。 ホームページアドレス http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/ フェロモントラップデータ随時更新中</p>	

I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

イチゴ

1. ハダニ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 10月下旬現在、寄生葉率(本年値 4.9%、平年値 5.1%)、被害葉率(本年値 7.0%、平年値 6.6%)ともに平年並～やや高く、発生地点率は平年よりやや高い。
- ② 気象予報によると、向こう1か月の気温は平年より高いと予想され、発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① ハダニ類は増殖が速いので、発生の少ないうちに防除を徹底する。特にビニール被覆後は発生が増加するので注意する。
- ② 薬剤は、薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、気門封鎖剤を除き同一系統・同一薬剤の連用を避ける。
- ③ ミヤコカブリダニ剤やチリカブリダニ剤などの生物農薬を使用する場合、薬剤防除で生息密度を下げてから放飼する。
- ④ ミツバチや天敵を使用する場合は、薬剤の影響日数等に十分注意する。

促成ピーマン

1. アザミウマ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	平年並～やや多い	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 10月下旬現在、寄生花率は平年並(本年値 10.0%、平年値 11.2%)、発生地点率は平年よりやや高い(本年値 75%、平年値 54%)。

[防除上注意すべき事項]

- ① 10月下旬現在、被害果は認めていない。アザミウマ類は増殖が速く、各種ウイルス病を媒介するので、発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ② 薬剤は、薬液が花や果実にもかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、系統の異なる薬剤を散布する。
- ③ 天敵を導入しているハウスで薬剤防除をする場合は、天敵への影響に十分注意する。

秋冬ハクサイ

1. アブラムシ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 10月下旬現在、寄生株率は平年よりやや高く（本年値 6.3%，平年値 1.0%），発生地点率は平年より高い（本年値 38%，平年値 6%）。

[防除上注意すべき事項]

- ① アブラムシが結球葉内に入り込むと防除が困難となるので、早めに薬剤散布を行う。薬剤散布は丁寧に行い、収穫前日数、使用回数に十分注意する。また、周辺作物等へ飛散（ドリフト）しないよう注意して散布する。

レタス

1. 菌核病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	県西地域

[予報の根拠]

- ① 10月下旬現在、発病株率（本年値 5.0%，平年値 2.8%），発生地点率（本年値 70%，平年値 50%）ともに平年よりやや高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① 排水不良は発病を助長するため、排水対策を行う。
② 発病を認めた場合は、菌核が形成される前に発病株を圃場外に持ち出し適切に処分する。
③ 気温がやや低く、降雨が多いと発生が多くなるため、気象条件を考慮しながら防除を行う。
④ 多発すると防除が困難となるため初期防除を徹底する。
⑤ 薬剤散布は、収穫前日数、使用回数等に十分注意し、薬液が葉裏や株元にも届くよう丁寧に行う。また、周辺作物等へ飛散（ドリフト）しないよう注意して散布する。

（平成 26 年 10 月 20 日発表 病害虫速報No.7 参照）

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
ナシ	黒星病	発生量：－	10月中旬現在，ナシ黒星病(秋型病斑)の発生は平年より多い。落葉は翌年の伝染源となるため，適切に処理する。 (平成26年10月24日発表 病害虫速報No.8参照)
イチゴ	炭疽病	発生量：平年並 ～やや少ない	10月下旬現在，平年並～やや少ない発生である。発病株はただちに抜き取り，適切に処分する。
	うどんこ病	発生量：少ない	10月下旬現在，平年より少ない発生である。
促成ピーマン	うどんこ病	発生量：平年並	10月下旬現在，平年並の発生である。
秋冬ハクサイ	白斑病	発生量：平年並 ～やや少ない	10月下旬現在，平年並～やや少ない発生である。
レタス	斑点細菌病	発生量：多い	10月下旬現在，平年より多い発生である。
	腐敗病	発生量：平年並	10月下旬現在，平年並の発生である。
秋冬ネギ	さび病	発生量：やや多い	10月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
	ネギアザミウマ	発生量：やや多い	10月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
共通害虫	オオタバコガ	発生量：－	10月下旬現在，フェロモントラップへの誘殺数は，水戸市，筑西市で平年より多く，龍ヶ崎市，土浦市，坂東市，古河市で平年よりやや多い。

II. 今月の気象予報

関東甲信地方1か月予報

(予報期間 10月25日から11月24日)

気象庁(10月23日発表)

<向こう1か月の気温, 降水量, 日照時間の各階級の確率(%)>

[確率]

要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信全域	20	30	50
降水量	関東甲信全域	40	30	30
日照時間	関東甲信全域	30	30	40

[概要]

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

<1週目の予報> 10月25日(土曜日)から10月31日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率60%

<2週目の予報> 11月1日(土曜日)から11月7日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または高い確率40%

<3週目から4週目の予報> 11月8日(土曜日)から11月21日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または高い確率40%